

スマートテキスタイル研究会（第42回）

【日時】2026年3月19日（木）

【方法】会場現地とオンラインのハイブリッド開催

【会場】①AKKODiS コンサルティング株式会社（東京都港区芝浦3丁目4番1号 グランパークタワー3F）
②Zoom 利用（聴講方法は、申込時に別途ご連絡）

【主催】エレクトロニクス実装学会・ヘルスケアエレクトロニクス研究会 第22回公開研究会

【共催】スマートテキスタイル研究会

【内容】『パーソナルヘルスケア～スリープテックとフェムテックの今』

13:00～13:05	オープニング 主査挨拶、本日の講演について
13:05～13:50	講演（1）「今、なぜ睡眠が注目されるのか」 有限会社 Sleeppeace 三橋 美穂 現代社会では、働き方の変化や情報過多、慢性的ストレスにより睡眠の質が低下し、健康・感情・生産性への影響が顕在化している。本発表では、睡眠が注目される社会的・科学的背景を整理したうえで、日本人に多い睡眠課題を概観する。さらに、行動変容を軸とした睡眠改善メソッドとスリープテックの活用可能性を紹介し、無理なく継続できる睡眠改善の実践的視点を提示する。
13:50～14:35	講演（2）「在宅用睡眠脳波計測器の開発で切り拓く睡眠事業」 株式会社 S'UIMIN 大森 元気 株式会社 S'UIMIN は筑波大学発スタートアップとして、微小信号を安定取得する設計と、睡眠脳波を即時解析する AI により、睡眠を医療レベルの精度で可視化する在宅向き睡眠脳波計測デバイスを開発した。個々人の睡眠改善に向けたヘルスケア事業や、睡眠関連の商材開発や治験に活用する研究開発事業等を開発・拡大する中で見えてきた、ヘルスケアエレクトロニクス技術による事業創出について紹介する。
14:45～15:30	講演（3）「スマートフォンと連動するヘルスケア用生化学センシングシステム」 明治大学 理工学部 工藤 寛之 個人が自身の体液成分に関する情報を得る機会は、AI 時代が幕を開けた現在もなお限定的であり、簡便な方法で情報化する技術の開発は喫緊の課題である。生体成分のビッグデータ構築に向けて、我々が開発を進めているウェアラブル・ポータブルなバイオセンサ群、並びにこれらを接続するスマートフォンプラットフォームの概要と、唾液中のエストラジオールや皮膚のサイトカイン計測への応用等について紹介する。
15:30～16:15	講演（4）「AI ウェアラブルが切り拓く乳房の新しい健康可視化と予防医療の未来」 デビス株式会社 デビス マリアナ AI およびバイオセンサー内蔵ウェアラブルデバイスを用いた乳房健康モニタリング技術“マンモケア”を開発した。乳房細胞の温度・湿度・生体リズムを連続測定し、女性の健康維持および早期異常検知への応用可能性を検討した。ノーベル生理学・医学賞対象の技術に基づいた測定原理を用い、予防医療と個別化ヘルスケアへの貢献を目的としている。
16:15～17:00	講演（5）「女性ホルモン等を簡便かつ高感度に検出するための分析システムの開発」 産業技術総合研究所 健康医工学研究部門 鈴木 祥夫 演者はこれまでに、“バイオセンシング機能を有する新規機能性材料の創製とそれらを利用した高機能光化学センサーの構築”というコンセプトに基づき、特定の生体物質等に感応して光学特性が鋭敏に変化する機能性材料の開発とセンシングへの応用を行ってきた。本講演ではこれまでに開発した化学センサーの開発事例と、最近、開発した女性ホルモンを高感度・高選択的に検出することが出来る分析システムについて述べる。
17:10～17:40	パネルディスカッション
17:45～19:30	技術交流会（現地別会場）